

平成 24 年度継続事業に関する継続評価書

- 研究機関 : 大阪大学、日本電気(株)、日本電信電話(株)
- 研究開発課題 : 「脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発」
(脳の動作原理の活用による省エネで外乱に強いネットワーク制御基盤技術)
- 研究開発期間 : 平成 23 ～ 26 年度
- 代表研究責任者 : 村田 正幸

■ 総合評価 : 適

(総論)

基礎的な部分に関しては対外発表(特に外国)を重視して、世界で研究のイニシアティブを取ってほしい。また、ネットワーク以外のアプリケーションへの適用性も幅広く検討して頂きたい。

(コメント)

- 評価の際の目的関数の明確化が望まれる。
- 理論的な検討は順調に進捗しているが、研究成果の経路計算アルゴリズムの実用化・出口が多少不明確である。最適な利用シナリオ、応用を具体化することを期待する。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

個々の研究機関がそれぞれの特徴を活かし、着実に成果をあげている。

(コメント)

- 経路計算量の削減、経路制御の階層化のモデル化など理論面において、目標以上に順調に研究が進捗している。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

全体的に、有効に利用されている。

(コメント)

- 目標通り、バランス良く研究資金を使用している。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

最終年度の実証に向けて、無理のない計画となっている。

(コメント)

- チャレンジングな課題も含まれているが、効率的に進めている。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

バランスの良い予算計画となっている。

(コメント)

- 予算の縮減に合わせて適切な修正がなされている。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

基礎的研究と応用的研究のギャップが目立つが、現段階では双方の持ち味を活かし、各研究機関が最先端の成果をあげることを期待。

(コメント)

- 大学と企業の連携がみられるが、研究成果の実用化に向けてより深い連携を期待する。